

未来

郵政産業ユニオン
PIWU
全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙 「みらい」
NO. 4177
21年8月24日 (火)
Tel・Fax 095-828-1953

恥ずべき過去を隠ぺいすることは、恥ずべき過去を持つことよりもさらに恥ずべきことだ

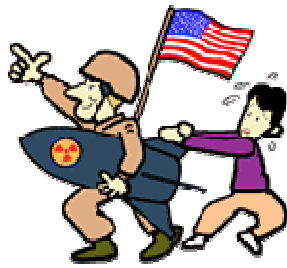
おはようございます。

長雨の中、甲子園で二〇三回目の高校野球が開かれていく。開会式で「大会は過去、三回が中止となった歴史を持つ」とあいさつがあった。

この大会は一九一五（大正四）年に始まったが、中止の一度目は一九一八（大正七）年のコメ騒動。二度目が一九四一（昭和一六）年から五回の太平洋戦争での中止であり、三度目が去年のコロナ禍の中止である。

今年の大会でもコロナは影響し、春の甲子園の選抜優勝校の神奈川の東海大相模高校が、県大会の準々決勝でコロナのために出場辞退をしている。甲子園でもすでに、宮崎と福島の高橋が辞退をした。甲子園が非常事態宣言下の兵庫県であることから、先行きは不透明だ。

夏の甲子園を五度も中止させた先の戦争は、戦火で大きな被害を出した。先日、敗戦の日の特集で「東京の空襲」があつてきた。この空襲で奇跡的に生き残った歴史家の半藤一利（今年一月死去）の「戦火の中、隅田川に飛び込み生き残った」という話があった。



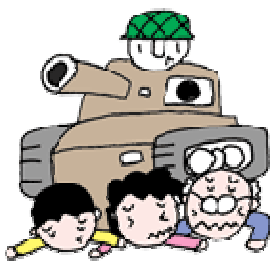
半藤の「ぶらり歴史散歩」によれば一九四五（昭和二〇）年三月一日、当時の東京は人口が二百二十万人であつたが、大空襲で十万人の死者が出る。アメリカの爆撃機B二九による焼き尽くし作戦であつた。これから八月の敗戦までの空襲で、全国の死者は三十万人（原爆は除く）。被災家屋は二百四十万戸だつた。



小泉純也防衛庁長官は小泉純一郎元首相の父であり、その息子が現小泉環境大臣で、祖父となる。戦犯がらみで言うなら、この現小泉環境大臣は今年の八月十五日、さきの戦争のA級戦犯八名が合祀され、その戦争を「正義の戦争」として、戦死者を英霊とする靖国神社に参拝した。彼らの思考はどういう歴史観なのだろうか。

ところが「この空襲作戦を決めたのは、米軍のルメイ空軍大将であるが、日本国と天皇は、一九六四（昭和三九）年に、このルメイ空軍大将に勲一等の勲章を与えている」と書く。「当時の総理大臣は佐藤栄作で、この授与に働いたのは防衛庁長官の小泉純也であり、この悪魔のごときルメイ殿に、なにゆえの勲一等旭日大授賞なるや。私の怒髪が天をついたのは、無理はないと思う」と半藤は怒りの言葉を書く。

そして一九四五年八月一日のポツダム宣言受諾の閣議決定と、天皇の御前会議での決断、また八月十五日の玉音放送で戦争は止まり、その後空白の二週間を経て、九月二日の東京湾上の米艦・ミズリー艦上でのわずか三分で終わった無条件降伏調印式で日本の敗戦が決まる。



このとき皇族で元陸軍大将の東久邇首相は、敗戦の原因について、一億総ざんげ論を語り、日本国民に一人一人にその責任がある、として、国と天皇と軍の責任を語らないまま十月に総辞職をする。

昭和の戦争の敗戦から七十六年が経った今年の八月。戦争は過去のことではないとして、

しかし、「天皇の戦争責任」を書いた井上清は、「降伏時の鈴木貫太郎首相は、はつきり天皇の責任を認めていた。鈴木は左近国務大臣に『陛下が戦争責任をおとりになるのは至当だ』と語っている。また、『敗戦時の鈴木内閣の書記官長の迫水久常が、日本の法制上あるいは日本の政治習慣上から言っても、天皇はこの戦争の道義的責任もない』とは言えない」と書く。



日本の首相はいま、戦没者の追悼をするが、アジアの戦死者への加害の反省や追悼はしない。この戦争では、日本も空襲を中国全土にかけている。爆撃機の爆弾の下には多くの一般の市民がいて、殺されたのだ。被害者は全アジア的に二千万人であり、その加害国は日本なのだ。この歴史は忘れてはならない。

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員と希望者全員の正社員化を。

ゆたかに、均等待遇、なぐさう差別！ ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！